

「ながさき食物アレルギーの会ペンギン」代表プロフィール

氏名	ましこ みさこ		
	益子美沙子		
生年月日		年齢	満 40 歳
職業	小・中・高等学校家庭科非常勤講師 食物アレルギーサポーター		
連絡先	住所 電話番号 PCメールアドレス mashikomisako@gmail.com		
略歴	<p>「食物アレルギーサポーター」として食物アレルギーの子どもを持つ親として、そして教育現場に立つ者として、この両方の視点より自発的な意思に基づき食物アレルギーに関する情報発信・啓蒙・サポート活動、食物アレルギー児童生徒が教育現場で安全に楽しく過ごせる環境整備の実現を目指す活動をしている。2011年より長崎女子短期大学幼児教育学科2年生「子どもの食と栄養」授業内で外部講師として講演活動を毎年していることをはじめ、学校教員、保育園、幼稚園、学童指導員、高校生向けの講演会・研修会を実施している。また、家庭科講師として学校現場において中高生向けに食育活動を積極的に実施している。自然の恵みや食に対する感謝の心を育むため「生きた教材」として校内に自生している「ヨモギ」「タケノコ」を収穫し調理実習を実施したり、講師の先生をお迎えし「みそ玉教室」を開催したりするなど、地産地消や和食文化を大切にする心を育む機会も設けている。</p> <p><賞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度食育推進活動表彰（知事賞） <p><資格></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2001年3月中学校教諭一種免許状（家庭） ・2001年3月高等学校教諭一種免許状（家庭） ・2016年6月食品衛生責任者 ・2017年5月食育指導士資格 <p><学歴></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1997年3月長崎東高等学校卒業 ・2001年3月長崎大学教育学部中学校教員養成課程家庭卒業 <p><報道関係></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年3月21日長崎新聞「あの人この人」掲載 ・2018年11月14日 K T Nテレビ長崎「PRIME news evening」内にて特集放送 ・2019年1月23日 NHK長崎放送局「イブニング長崎」内にて特集放送 ・2019年2月7日 NHK九州沖縄管内「おはよう九州沖縄」内にて特集放送 		



(1) 活動の目的

- ・教育現場における食物アレルギー対応の啓蒙活動
- ・教育現場と食物アレルギー児童生徒がいるご家庭の架け橋
- ・教育現場の先生方・食物アレルギー児童生徒がいるご家庭・保護者のサポート

(2) 活動の内容

＜食物アレルギーサポーターとして＞

- ・食物アレルギー講演会
対象→小・中・高校教員・学童保育指導員等・幼児教育学科2年生・高校生3年生
- ・長崎県学童保育指導員会研修会
「三大アレルゲンを使わないお菓子作り」研修会
- ・食物アレルギー児童生徒向けサポートブックのデータを全国の方へ無料配布
「サポートブック」とは・・・
食物アレルギーのため配慮が必要な児童生徒が家族以外の方と関わる際、子どもの様々な情報を知ってもらうためのツール。「子どもの情報」をまとめた冊子
- ・家庭科の先生方に食物アレルギー児童生徒保護者向けの調理実習前配布文書の提案
- ・食物アレルギー対応料理教室の主宰（添付資料④）
- ・長崎県幼稚園連合会研修会の助言者活動
(2019年長崎県私立幼稚園連合会夏季教育研究大会教師研修会第1分科会山美幼稚園)
- ・給食のコピー食品のレシピ考案・提供
例 卵アレルギー児童がいるご家庭からの依頼
「給食で提供されるオムレツが家庭からの持参のため、
同じような見た目（＝コピー食品）の作り方を教えてください。」
- ・誤食事故が起こった際の保護者のサポート

＜家庭科教諭として＞

- ・西海市雪浦川添酢造さんから講師の先生をお招きしての「高1みそ玉教室」
(みそ玉作りを通し、和食の良さ・発酵食品の良さを学び、将来の1人暮らしに役立つ知識・技能を身につけることを目的とする)
- ・中1 or 高1と海外からの短期留学生と共に校内に自生しているヨモギを収穫しヨモギ餅作り、同じく校内に自生しているタケノコを収穫しタケノコご飯などの調理実習実施
(自然を体験し、自分で収穫したものを使いヨモギ餅やタケノコご飯を作り春を味わう、留学生にも日本の食文化を体験して頂くということを目的とする)
- ・食物アレルギー対応の事前研修・校内環境整備・校内食物アレルギー委員会
- ・家庭科調理実習における、食物アレルギー児童生徒の保護者向けの事前文書作成、そのデータの無償配布

(3) 活動の期間

2011年～8年以上

(4) 社会的貢献

- ・食物アレルギー児童生徒を受け入れる教育現場において、正しい理解と協力が得られるよう共通理解と連携を図ることの講演活動をしている点。
- ・次世代を担う若者達に講演会を実施することにより、社会に出てからの仕事上だけでなく人生において知っておいて損はない食物アレルギーに関する情報・知識を広めることが出来ている点。
- ・食物アレルギー児童生徒がいる保護者のサポートをすることにより、通園通学する施設の先生方の啓蒙活動にも繋がっている点。
- ・2012年12月東京都調布市の小学校において給食の誤食による食物アレルギー事故が起こり、小学5年生女兒が死亡した。食物アレルギーのある子どもを持つ親として、この事故を教訓とし二度と起こしてはならないという信念の元、独自の取り組みをしている点。
- ・学校現場において中高生向けに食育活動を積極的に実施している点。

(5) 活動がもたらした効果

- ・教育現場と食物アレルギー児童生徒の架け橋
- ・食物アレルギー児童生徒を受け入れる教育現場の先生方の正しい体制作り
- ・食物アレルギーの子どもを持ち悩んでいる保護者のサポート
- ・若い世代への食物アレルギーに関する正しい情報・知識の普及
- ・中高生に、自然の恵みや食に対する感謝の心、地産地消や和食文化を大切にする心を育んでいる

(6) 活動の独自性

- ・サポートブックというものを作り出し、そのテンプレートデータを全国の方に無償で提供している点。
- ・食物アレルギーを持つ子の親である立場、教育現場に立っている立場、その両方の視点より食物アレルギーに関し情報発信・啓蒙・サポート活動をしている点。

(7) 今後の活動の継続性

「食物アレルギーサポーター」という活動は、食物アレルギー児童生徒が増え続けている昨今の現状でより一層求められている。食に関する理解を深め健全な心と体を培い豊かな人間形成を推進し、健康で文化的な生活と豊かで活力ある社会の実現を目指すためにもこの活動は今後も継続していく。食物アレルギーに関する長崎県ボランティアセンター登録団体「ながさき食物アレルギーの会ペンギン」を立ち上げ、今後益々長崎県の食物アレルギーに関する活動に尽力していく。